

評価の観点	読むこと	単元	幻の魚は生きていた 1年	実践日時	R1.10.18
本時のねらい	筆者の「互いの生き方を尊重し、バランスを重視することが共生である」という考え方について、立場と根拠を明確にして話し合うことで、「自然との共生」について自分の考えを形成することができる。				

<主体的・対話的で深い学びにつなげる指導について>

導入

【手立て①：本時の出口とそのため道の筋を明確にした課題提示をする。】

- ・見通し表をもとに、本時は、筆者の考え方に対して自分の考えを形成する時間であることを確認した。
- ・本時の出口に、筆者の考える自然との共生について自分の考えを形成する。そのためにも、「共生」について、筆者の考えに共感できるかどうか、自分の立場を明らかにさせることで、筆者の主張を捉え直したり、問い直したりする必然性を生み出した。

展開

【手立て②：筆者の考えに対する自分や仲間の考えを可視化する。】

- ・「ピラミッドチャート」「バタフライチャート」を使用し、自分の考えを整理することに加えて、三角ロジックを使うことで、筆者の考え方をもとに自分の考えを形成できるようにした。
- ・ホワイトボードを使用し、立場を明確にして、その根拠を記述することで、自分の考えと比較しやすくなった。

終末

【手立て③：全体交流を踏まえて、自分の考えを見直す。】

- ・自分の考えと比較し、共通点や相違点を整理することで、初めに考えていた「共生」とは何かを自分の言葉でまとめることで、自分の考えを確かなものにしたと実感できるようにした。

<板書、生徒の作品、ノートなど>



本時のねらい

筆者の「互いの生き方を尊重し、バランスを重視することが共生である」という考え方について、立場と根拠を明確にして話し合うことで、「自然との共生」についての自分の考えを形成できる。

本時の展開(5/6)

	学習活動	指導・援助
導入	<p>◇前時の学習内容を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・筆者の「自然との共生」についての見方や考え方を想起する。 ・筆者と自分の考えを比較し、立場を明確にする。 <p>◇本時の課題を確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「自分の考える共生は筆者と全く同じか」と問いかけることによつて、共感できる立場でも相違点があり、自分の考えをまとめる必要があると気付かせる。
展開	<p style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">筆者の主張する「自然との共生」は実現可能か。</p> <p>◇課題解決に向けて個人追究する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・筆者の考える「自然との共生」に「共感する」「共感できない」という二つの立場を明確にする。 	
	<p style="border: 1px solid black; padding: 5px;">【考え方例】</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>【実現可能である】</p> <p>自分の考える「自然との共生」は「お互いがお互いにとって大切な存在である」ということだ。筆者はクニマスが滅ぶことによつてそれに関わる文化も途絶えることも考えていた。この点には強く共感できる。確かに食に関することは文化や職業などとも関わってくる。それらを大切にすることが人間にとっての「共生」ということにつながるのではないか。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【実現は難しい】</p> <p>自分の考える「自然との共生」は「お互いの生きる権利を奪わない」ということだ。筆者は人と生き物とがつながりあった関係を維持すると考えているが、この点には共感できない。共に生きるという以上、どちらかが不利益を被るのはおかしい。人間と絶滅危惧種を比較したとき、圧倒的に人間が強い。対等にするためには、まず弱い立場を守らなければならない。</p> </div> <p>◇班内で交流し、考えを深める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホワイトボードに立場を明記しながら交流する。 ・どの立場の意見に対しても、自分と比較し、共通点と相違点を明確にしながらかく。 <p>◇全体で交流し、考えを広げる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・班長が話し合いの概要を報告する。 ・「自然との共生」とは何かについて再度考え、自分の考えを確かなものにする。 <p>◇自分の考えの深まりや広がりを確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「ピラミッドチャート」「バタフライチャート」の二つのシンキングツールを用意する。考えの展開を考えている生徒には前者、根拠を増やすことを考えている生徒には後者を与え、形成の一助とする。 ・班毎にホワイトボードを使い、考えを板書していく。その際立場を構造的に書かせることで、互いの意見を比較しやすくする。 ・班毎の話し合いの概要について班長が一分程度で報告する。出た意見や重点的に話し合ったことを自分の班と比較しながら聞かせ、自分の考えとの共通点や相違点を考えさせる。 ・再度課題について考えさせることによつて、これまでの話し合いによつて自分の意見と比較して考えたことをまとめさせる。
終末	<p style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">自分の考える「自然との共生」は筆者と近いものだった。筆者がクニマスの絶滅によつて文化の滅亡を関連付けていたことを根拠としたが、以前はそこまでは考えていなかった。「共生」とは単に「一緒に生きる」とことだと思っていたからだ。「人間と生き物のバランスを考える」ということは以前から考えていたが、今回の学習を通して新たな視点もできた。自分の考えが深まったし、広がったところだ。</p>	<p>【評価規準】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・筆者のものの見方や考え方を根拠とし、仲間と考えを交流することを通して、当初の自分の考えと比較し、共生についての考えを形成している。

評価の観点	読むこと(1)オ	単元	盆土産 2年	実践日時	R2. 11. 25
-------	----------	----	--------	------	------------

本時のねらい 「優しさ」や「温かさ」を感じる登場人物の言動と自分たちの日常生活をつなげて考えることを通して、今求められる「優しさ」や「温かさ」について考えを形成することができる。

<主体的・対話的で深い学びにつなげる指導について>

【手立て①：主体的な学びにするために】

- ・本単元の言語活動として今(コロナ禍)求められる「優しさ」や「温かさ」を全校に広めるためのポスター作成を設定した。
- ・単元の導入において、その目的に向かうための道筋や方法が明記されたワークシートを用いることで学習活動に見通しをもつことができるようにした。

【手立て②：生徒全員が考えを形成するために】

- ・本時は、「盆土産」から読み取った登場人物の「優しさ」や「温かさ」と自分の知識・経験とをつなげて考えを形成する時間である。そのため、知識・経験が十分でない生徒のつまずきが予想される。そこで、既習の単元から「優しさ」や「温かさ」に関わる内容をプリントにまとめた。机間指導で見届け、生徒の学習状況に応じてこのプリントを参考にするよう促した。

今だからこそ必要な「優しさ」や「温かさ」とは、
『盆土産』 三浦 智郎

【単元の目標】
・時代背景や言動から登場人物の人物像を捉えること。
・「優しさ」と「温かさ」とは何を意味し、人物の言動から読み取ること。
・本文の仲間の考えから、自分の考えを深め広げる場をつくること。

【単元のねらい】
① 登場人物の言動や関係性に着目して、その人柄や心情を読み取る。
方法！
② 登場人物の言動や関係性に着目して、その人柄や心情を読み取る。
方法！
③ 登場人物の言動や関係性に着目して、その人柄や心情を読み取る。
方法！

④ 登場人物の言動や関係性に着目して、その人柄や心情を読み取る。
方法！
⑤ 登場人物の言動や関係性に着目して、その人柄や心情を読み取る。
方法！

⑥ 登場人物の言動や関係性に着目して、その人柄や心情を読み取る。
方法！
⑦ 登場人物の言動や関係性に着目して、その人柄や心情を読み取る。
方法！

【単元導入のワークシート】

【字のない漢字】

- ・家を出た娘のために、何度も何度も手紙を書いた父。
- ・娘のために大量の葉書に自分あての宛名を書いた父。
- ・疎開先から帰る娘のために、あるだけのかぼちや全てを客間に並べた家族。
- ・娘を迎える際、裸足で家を飛び出した父。

【大人になれなかった弟たちに】

- ・子どもたちの食料のために、自分の着物を売る母親。
- ・子どもたちのために、疎開先を何とか見つけようとする母親。
- ・あゆをとれば、母親が喜ぶだろうと考える「僕」。
- ・弟のヒロユキが喜ぶだろうと、池に川へ遊びに行く「僕」。

【少年の日の思い出】

- ・エーメールに対して謝罪をした「僕」に対して多くを聞こうとせず、キスだけをして構わずにいてくれた母。

【既習の内容をまとめた補助プリント】

【手立て③：深い学びにするために】

- ・本時における深い学びの姿は、「仲間の考えから、自分の考えを捉え直そうとする姿」であると考えた。仲間の発言を聞いて、根拠とした教科書の本文は異なるけれど考えが同じであることに気付くこと(考えの深まり)、根拠とした教科書の本文は同じだけれど考えが異なっていることに気付くこと(考えの広がり)である。そこで、交流を行っていく中で、指名する順番や板書の位置付け方を工夫したり、仲間の発言につなげた考えを価値付けたりすることによって、生徒が考えの深まりや広まりを自覚できるようにした。

今求められる「優しさ」や「温かさ」とは、
誰かのために行動する

交流メモ(なるほどと感じたことを新たな発言)	<p>相手が思うやさしさとは 相手のことを想って行動すること</p>	<p>組織(盆土産から)</p> <p>組織(急縁や知識)</p>
------------------------	--	-----------------------------------

【学習プリント】

やさしさ・温かさ

盆土産

盆土産を讀み前

自分が思うやさしさとは
相手のことを
想って行動すること

Part 1

Part 2

盆土産を讀んだ後

温かく見守り、感謝すること

今 必要なやさしさ・温かさは

コロナ禍の中、大人数が集まる機会がなくなり、人と人との距離が遠くなった。だからこそ、温かく見守り、感謝する姿が大切だ。

【単元の出口における生徒作品】

<p>◇本時のねらい(5/6)</p> <p>「優しさ」や「温かさ」を感じる登場人物の言動と自分たちの日常生活をつなげて考えることを通して、今求められる「優しさ」や「温かさ」について考えを形成することができる。</p>	<p>◇評価規準</p> <p>今求められる「優しさ」や「温かさ」について、登場人物の言動をもとに自分の知識・経験と関連させて考えている。</p> <p>【読むC】(発言内容・ワークシート)</p>	
<p>生徒の意識の流れ</p>	<p>学 習 活 動</p>	<p>指導★と評価●</p>
<p>目的を確かめる</p> <p>登場人物の言動から「優しさ」や「温かさ」を前の時間までに考えることができた。それをもとにして、今求められる「優しさ」や「温かさ」とは何が考えていこう。</p>	<p>① 前時の学習内容を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「自分」が速達から父親の身を案じる。【いつでも思う】 ・「自分」が父のために雑魚を釣り上げる。【相手のために】 ・父が子どもたちのために眠りを寸断しながらえびフライを持つてきた。【自分よりも】 ・父が別れ際「自分」の頭をわしづかみにして、揺さぶった。【相手の気持ちを考えて】 <p>② 本時の課題を確認する。</p>	<p>★①単元の見直し表、掲示の見本を用いて、次時には「優しさ」や「温かさ」をもとに校内の掲示を作成することを確かめ、自分の考えを形成する目的意識を確かめるようにする。</p> <p>【C→Bへの手立て】</p> <p>生徒がこれまでの授業の中で登場人物のどの言動に着目したのかを把握しそれを提示したり、「優しさ」や「温かさ」についての新聞記事やエピソードを載せたプリントを参考にするとよう促したりする。</p>
<p>課題解決を見通す</p> <p>登場人物の言動から色々な形の「優しさ」や「温かさ」があるということが分かったな。自分にも似たようなことがなかったか、知っていることとつながらないか考えていくとよさそうだな。</p>	<p>③ 登場人物の言動をもとに「優しさ」や「温かさ」とは何なのか考えを形成する。</p> <p>【学習者A】</p> <p>主人公は久しぶりに家に帰ってくる父を迎えるために雑魚釣りをしていました。そこから、相手に何かしてあげられることはないか親身に考えることが「優しさ」であると感じました。私の家族も毎日当たり前のようにご飯を作り、掃除もしてくれます。自分のことを思ってくれていたことに気が付きました。</p> <p>【学習者B】</p> <p>父の言葉には出さないけれど、自分の子どもを思いやる姿が心に残りました。多くは話らないけれど、父の子どもに対する思いは確実に伝わっているのではないかと思いました。現在、人と会うことが制限されています。実際に会いに行くことはできないけれど、家族同士が理解し合うことで、お互いの気持ちは理解し合えるのではないかと思います。</p>	<p>★④同じ「優しさ」でも根拠が異なる、同じ根拠でも考えた「優しさ」が異なる発言を価値付け、考えの広がりや深まりを自覚できるようにする。</p> <p>★④仲間の考えを聞いて共感したことや新たに気付いたことを書き込むことができるワークシートを用いる。</p>
<p>定着や変容を自覚する</p> <p>登場人物の言動から「優しさ」や「温かさ」について考えをもつことができた。また、仲間と考えを交流する中で自分の考えが広がったり、深まったりした。今回は自分の考えをもとに、校内に「優しさ」や「温かさ」を伝える掲示物を作成しよう</p>	<p>④ 学級で交流する。</p> <p>⑤ 本時での学習を振り返る。</p> <p>今、求められる優しさは「言葉には出さなくても相手のことを思うこと」と考えます。Cさんは、家族との関わりの中で、言葉でなくても優しさを感じたという経験から話していて、私も納得しました。今は簡単に言葉で人を傷つけてしまう世の中だから、こういう優しさが特に必要だと思います。今回は、この優しさを広めていきたいです。</p>	<p>【深い学びの姿】</p> <p>仲間の考えを踏まえ、「優しさ」「温かさ」を感じる具体的な行動について自分と比べ考えることができています。</p> <p>【単位時間で育成する資質・能力】</p> <p>本文から読み取ったことをもとに自分の既有的知識・経験をつなげて自分の考えを形成する力。</p>

評価の観点	思考・判断・表現	単元	比喻で広がる言葉の世界 1年	実践日時	R3. 7. 7
本時のねらい	筆者の森山さんの主張に対して共感できるかどうか考える活動を通して、森山さんの考える比喻の効果に気づき、筆者の主張について考えを形成することができる。				

<主体的・対話的で深い学びにつなげる指導について>

【手立て①：主体的な学びにするために】

- ・本単元の言語活動として筆者の考える比喻の効果に気づき、筆者の主張である「形状を分かりやすく伝える効果・物事の特徴をより生き生きと印象づける効果」について自身の考えを広げたり深めたりするための話合いを設定した。
- ・単元の導入において、その目的に向かうための道筋や方法が明記されたワークシートを用いることで学習活動に見通しをもつことができるようにした。

「単元の目的」
「詩の世界」「比喻で広がる言葉の世界」
表現は、酒であふれている。
「酒にハマって読んでみた。」

1 時を定め、おに介の時をつかめる。
方法1 四の字の語を繰り返し書いて、真ん中に「酒」の字を埋め込んでみる。
方法2 四の字の語を繰り返し書いて、真ん中に「酒」の字を埋め込んでみる。
方法3 四の字の語を繰り返し書いて、真ん中に「酒」の字を埋め込んでみる。
方法4 四の字の語を繰り返し書いて、真ん中に「酒」の字を埋め込んでみる。

2 詩の言葉と表現を比べる。
方法1 四の字の語を繰り返し書いて、真ん中に「酒」の字を埋め込んでみる。
方法2 四の字の語を繰り返し書いて、真ん中に「酒」の字を埋め込んでみる。
方法3 四の字の語を繰り返し書いて、真ん中に「酒」の字を埋め込んでみる。
方法4 四の字の語を繰り返し書いて、真ん中に「酒」の字を埋め込んでみる。

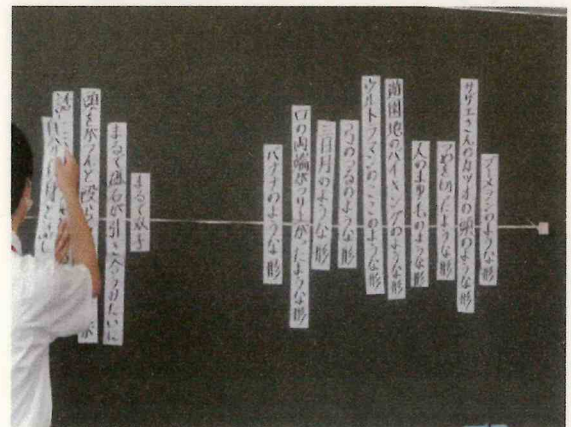
3 読者の感情に寄り添って、内容を考える。
方法1 四の字の語を繰り返し書いて、真ん中に「酒」の字を埋め込んでみる。
方法2 四の字の語を繰り返し書いて、真ん中に「酒」の字を埋め込んでみる。
方法3 四の字の語を繰り返し書いて、真ん中に「酒」の字を埋め込んでみる。
方法4 四の字の語を繰り返し書いて、真ん中に「酒」の字を埋め込んでみる。

4 筆者の考えについて、自分の考えをもつ。
方法1 四の字の語を繰り返し書いて、真ん中に「酒」の字を埋め込んでみる。
方法2 四の字の語を繰り返し書いて、真ん中に「酒」の字を埋め込んでみる。
方法3 四の字の語を繰り返し書いて、真ん中に「酒」の字を埋め込んでみる。
方法4 四の字の語を繰り返し書いて、真ん中に「酒」の字を埋め込んでみる。

【単元導入のワークシート】

【手立て②：生徒全員が考えを形成するために】

- ・本時は、「詩の世界・比喻で広がる言葉の世界」から読み取った筆者の考える「比喻の効果」について、自分の知識・経験をつなげて考えを形成する時間である。そのため、知識・経験が十分でない生徒のつまずきが予想される。そこで、前時に集めた比喻が用いられた表現を黒板に示した。机間指導で見届け、生徒の学習状況に応じて黒板を参考にするよう促した。



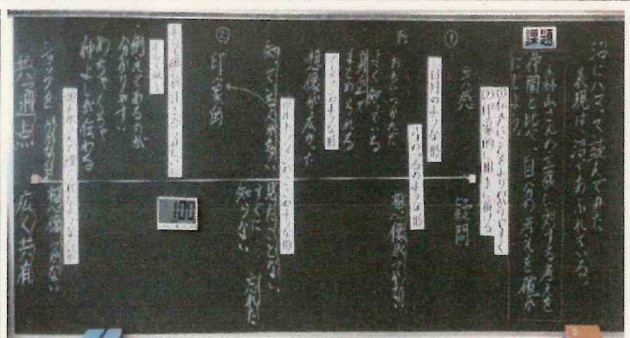
【考えの形成につなげる黒板】

【手立て③：深い学びにするために】

- ・本時における深い学びの姿は、「仲間の考えや事例から、自分の考えを捉え直そうとする姿」であると考えた。仲間の発言を聞いて、同じ比喻表現を選んでいるけれど考えが異なっていることに気付くこと(考えの広がり)、異なる比喻表現を選んでいるけれど考えが同じであることに気付くこと(考えの深まり)である。そこで、交流を行っていく中で、指名する順番や板書の位置付け方を工夫したり、仲間の発言につなげた考えを価値付けたりすることによって、生徒が考えの深まりや広まりを自覚できるようにした。



【本時の使用プリント】



【本時の板書】

◇本時のねらい(5/5)

筆者の主張に対して共感できるかどうか考えることを通して、筆者の考える比喩の効果に気づき、筆者の主張について考えを形成することができる。

◇評価規準

筆者の主張に対する自分の考えを、これまでに学習した作品や読書経験、日常生活などの知識・経験と関連させて考えている。

【Cオ】(発言内容・ワークシート)

生徒の意識の流れ

目的を確かめる

比喩は、「形状を分かりやすく伝える効果」と「物事の特徴をより生き生きと印象づける効果」の二つがあった。筆者の主張に対して、共感できるか疑問に思うか、考えている。

課題解決を見通す

筆者の主張は理解できなかった。他にも比喩の使われている表現について、前に調べたことを根拠にして、筆者の主張に共感できるか疑問に思うか考えていくとよさそうだ。

定着や変容を自覚する

筆者の主張に対して、自分の考えをもつことができた。仲間と考えを交流する中で自分の考えが広がったり、深まったりした。例えば、〇〇さんは△△の表現を分かりにくいと言っていたけど、僕はそうは思わなかった。「比喩」は、受け取り手によつて、感じ方が違ふことが分かった。

学 習 活 動

① 前時の学習内容を確認する。

- ・比喩を使つて説明すると、形を簡単に説明できた。でも、使わないと説明が難しかった。
- ・「まるで磁石が引き合うみたいに」「自分自身と話しているようなもの」「頭をがつんと殴られたような」など「シンシユン」の中には、たくさんの比喩があった。

② 本時の課題を確認する。

森山さんの主張に対する考えを仲間と比べ、自分の考えを確かめよう。

③ 筆者の主張と前時に見つけた比喩表現をもとにして、自分の考えを形成する。

【学習者ア】

僕は、「伝えたいことをより分かりやすく」のところに共感できました。理由は、「ちよつと立ち止まつて」や「シンシユン」の学習をしたときに、分かりやすかつたし、読んでいて面白いと思つたからです。

「シンシユン」では、「まるで磁石が引き合うみたいに」と書いてあつて、二人のなかよしな感じがすこく伝わってきました。二人が自然と引き寄せられるように、仲良くなつたのだと感じました。他にもたくさん使つてあつて、様子がよく伝わり、読んでいて楽しかつたです。

【学習者イ】

僕は、〇〇のところに少し疑問があります。理由は、三日月の説明で分かりやすさはよかつたけど、その他の比喩表現は分かりにくかつたからです。

例えば「まるで磁石が引き合うみたいに」とあるけれど、「磁石が引き合う」とことと、仲良しなこととはつながりません。「引き合う」ということは、磁石はS極とN極です。全く性質が異なるので、「そつくり」ではないし、「仲よくなつた」とは、理解しにくく、意味が分かりません。

④ 学級で交流する。

⑤ 本時での学習を振り返る。

僕は、筆者の「印象的に相手に届けられることができる」に対して共感していました。比喩があることで分かりやすいし、読んでいて面白いです。〇〇さんも説明で挙げた言葉は聴うけど、僕と考え方が似ていました。でも、学習者イさんの考えを聞いてなるほどとも思いました。比喩を使うことで、相手に正しく伝わらないときもあることが分かりました。今度、本を読むときに比喩表現に気を付けて読んでみたいと思いました。

指導★と評価●

★①単元の見通し表を用いて、これまでの学習や本単元の出口、本時の見通しなどを確かめる。

【C→Bへの手立て】

- ・僕は、筆者の〇〇に共感できます。理由は△△だからです。」などと書き出し方を指定する。
- ・黒板に示した前時に集めた比喩が用いられた表現の中から、どれを使つて考えるかを一緒に確かめる。

【B→Aへの手立て】

- ・考えを広げるために、同じ比喩表現を選んで、同じ比喩表現を選んでいる生徒を指名する。
- ・互いの考えの共通点や相違点を確かめるために、「さつきの発言内容とどこが似ていますか。または、「どこが違いますか。」と、全体に問いかける。

★④同じ共感でも根拠が異なる生徒や、根拠は同じだが考えが異なる生徒を紹介し、考えの広がりや深まりを自覚できるようにする。

深い学びの姿
を自分と仲間の考えや事例を比べ、考えることができる。

【単位時間で育成する資質・能力】

様々な比喩表現をもとに自分の既有的知識・経験をつなげて自分の考えを形成する力。